



## サケは、どうやって大きくなっていくの

### ふ化したばかりのサケは、えさを食べない

川底に産みつけられたサケの卵は、およそ60日くらいでかえり、おなかに大きな卵黄をつけた子魚が出てきます。まだ、自分で泳いでえさをとることはできませんので、石の下などにかくれ、おなかの卵黄の栄養で育っていきます。およそ50日後に、おなかの卵黄がなくなり、3.5センチメートルくらいまで育ったサケの子魚は、泳いでえさを食べはじめます。えさは、水生こん虫の幼虫などです。

### サケは、北の海でおとなになる

春の間、川で体長が5～7センチメートルになるまで育ったサケの子どもは、体の色も銀色になり、川を下って海に旅立ちます。北の海で、3～5年間、ほかの小魚やイカなどをおなかいっぱい食べてすごします。体長が80センチメートルくらいまで大きくなったサケは、生まれた川を探して、卵を産みに帰ってきます。卵を産むためにだけ、自分の生まれた川に帰ってくるのです。このときサケは、いっさいえさを食べなくなり、命がけで川へ上ってきます。そして、中流の川底にあなをほり、卵を産むと、力がついて、メスもオスも死んでしまいます。（監修・安部 義孝）

